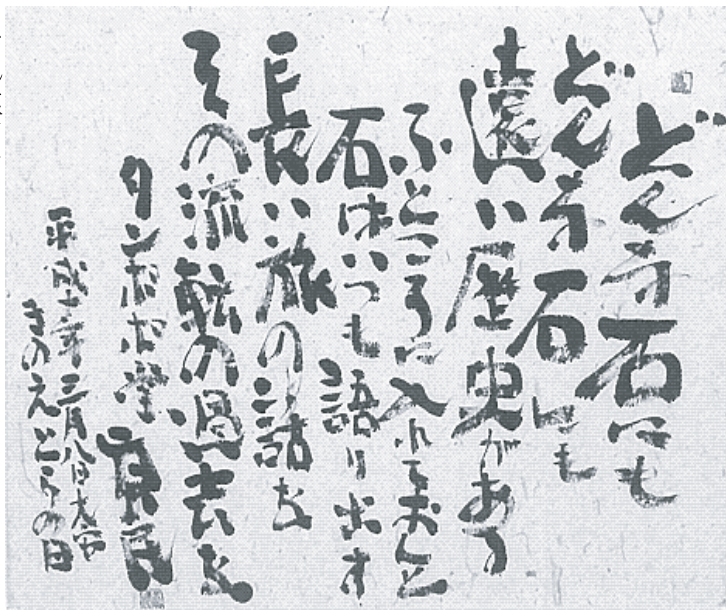


笑う門には 福来る。

松山市勝山町1-18-10
(株)日本交通社
TEL (089) 946-3911
発行人：中村 剛志



どんな石にも

「諸国七十六号」(真民五十九歳)に掲載された、石に関する二十篇の詩から構成された「愛石唱」という題名の一篇である。真民の詩には、石を題材とした詩が数多くあり、因みに題名に「石」が付く詩は百十五篇、詩の中に「石」が出てくる詩は四百十四篇もある。「何万年もひとところに、じっとしている石(石の声より)の声を聞き、その話を聞くことが好きだった。

坂村真民記念館(砥部町)

明朗・愛和・喜働

酒席での心得

忘年会シーズンの十二月です。普段よりもお酒を飲む機会が増えるでしょう。江戸時代中期に、武士の心得として、佐賀藩士の山本常朝が書き残した『葉隠』には、酒席での心得を示した一文があります。

「酒といふ物は、打上り綺麗にしてこそ酒にてあれ。気が付かねばいやしく見ゆるなり」

ここでは、だらだらといつまでも飲むのではなく、綺麗に切り上げることの大切さを述べています。楽しい時間は過ぎるのが早いもの。しかし、時間にはケジメをつけることが社会人としての酒席のマナーでしょう。

また、お酒の飲み方で、その人柄がわかるとも記されています。お酒は陽気な気分させる一方で、冷静な判断を鈍らせることもあります。

酒は飲んでも飲まれないこと。『葉隠』には「公界物なり」として、酒席も公の場であることを示す文章もあります。

マナーをわきまえ、おいしく楽しく酒を味わい、一年の労を労いましょう。

●酒席のマナーを心得ましょう

「職場の教養」より

宇和ちゃんの啖呵短歌

へんろ道逸らしし人に車停め
一丁戻れと言いつ合掌す



打つ手無く強がる親に寄り添いて
共に悩める教師でありたし

八木健さんの川柳アート

やぎけん

乾杯の
前の一言長すぎる

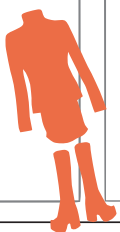


結女さんの松山ミクロン

泣きたき日
少し大きな
コート着る

耳たぶの

左右違へる
寒さかな



道しるべ

常に明朗な心で

輝く朝日のように常に明朗で感謝にあふれ、前向きに取り組もう。明るい善意に満ちた人の心は、身体をはつらつとさせる。